

# NSG

GROUP

# NSG グループ

## 2020年3月期第1四半期決算報告

(2019年4月1日～ 2019年6月30日)

日本板硝子株式会社  
2019年8月1日

## 諸岡 賢一

代表執行役副社長兼CFO

## クレメンス・ミラー

代表執行役副社長兼COO

## イアン・スミス

執行役 グループファイナンス担当ディレクター

## 目次

1. 2020年3月期第1四半期 決算概要
2. 2020年3月期第1四半期 事業状況
3. 主な取り組み施策 アップデート
4. まとめ

# 2020年3月期第1四半期 決算ハイライト



## 2020年3月期第1四半期は通期業績予想に沿って推移

売上高	1,471億円 (前年比△7%)	主として円高による為替換算の影響により減少 為替影響を除けば前年比2%減少
無形資産償却前 営業利益	93億円 (前年比△9%)	当初想定通り、欧州自動車市場の減速、原燃材料コストの上昇による影響を受ける一方、太陽電池パネル用ガラスの増加やコスト改善が寄与
親会社所有者に 帰属する当期利益	29億円 (前年比△47%)	当初想定通り、前期との差額は、前年同期に個別開示項目として一過性の収益を計上した影響
フリー・キャッシュ・フロー	△268億円	戦略投資*と運転資本の季節変動等による影響

\* 戦略投資: 13ページ参照

2020年3月期第1四半期のハイライトです。

第1四半期は、今年5月10日に公表した当期の業績予想に沿った着地となっております。

売上高は、前年同期比7%減の1,471億円でしたが、これは主に円高による為替換算の影響によるものです。

為替換算の影響を除くと、2%の減収でした。

無形資産償却前営業利益は93億円となりました。

欧州自動車市場の減速、原燃材料コストの上昇などにより影響を受けましたが、一方では、太陽電池パネル用ガラスの大幅な出荷増やコスト改善がその影響を一部打ち消しました。

前年比では減益ではありますが、これも当初の想定通りの結果になりました。

親会社所有者に帰属する当期利益は29億円でした。前年同期に個別開示項目として一過性の収益を計上しておりましたが、それが今期には発生しなかったためです。

フリー・キャッシュ・フローについては、戦略投資と運転資本の季節変動等により、マイナスの268億円となりましたが、これもこの四半期としては当初の想定通りです。

今後、年度末に向けて、戦略投資の額は予定通り増えていきますが、運転資本の管理を厳しく実施することで、戦略投資等を除いた通常のベースではプラスのフリーキャッシュフローになるように改善を目指してまいります。

# 連結損益計算書



業績予想は変更なし

(億円)	2019年3月期 4月-6月期	2020年3月期 4月-6月期	2020年3月期 上期見通し	2020年3月期 通期見通し
売上高	1,584	1,471	3,100	6,200
無形資産償却前営業利益	102	93		370
償却費 *	(5)	(5)		(20)
営業利益	97	88	170	350
個別開示項目	24	(6)		(60)
金融費用（純額）	(32)	(35)		(140)
持分法による投資損益	4	5		40
税引前利益	93	52		190
当期利益	60	31		120
親会社の所有者に帰属する当期利益	54	29		110
EBITDA	167	175		

\*: ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

2019年8月1日 | 2020年3月期第1四半期決算報告

6

売上高及び営業利益については、前のスライドの通りです。

個別開示項目では、子会社の売却益を計上する一方、欧州の自動車用ガラス事業におけるリストラクチャリング費用や北米の建築用ガラス事業における停電に伴う設備休止費用の計上により、6億円のマイナスとなりました。

前年同期には資産の減損損失の戻入益が一過性の益として計上されていたため前期比では差がありますが、これも想定にそって推移しています。

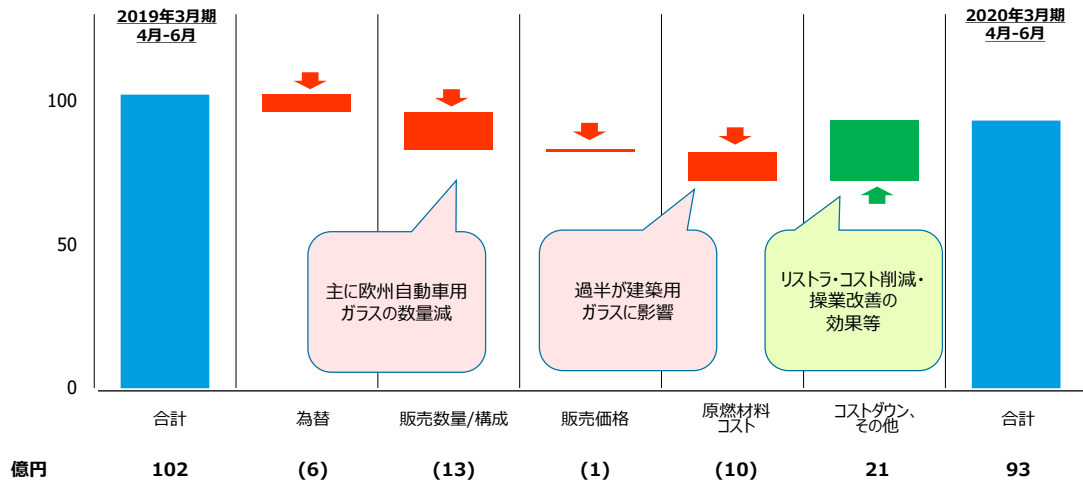
ネット金融費用は、当期から適用しましたIFRS16号「リース」の影響により、前年同期と比較して増加しています。

IFRS16号の影響については、後のスライドでも別途ご説明します。

先に申し上げた通り、当第1四半期の業績は年度計画に沿って推移しているため、5月10日に公表しました中間期及び通期の業績予想の変更はありません。

# 営業利益差異分析 (無形資産償却前)

コスト・ベースの改善により、原燃材料コストの増加や数量減の影響を吸収



2019年8月1日 | 2020年3月期第1四半期決算報告

ここでは、無形資産償却前営業利益について、前年同期との差異について説明しています。

グループ全体としては、減益ではありながらもコストダウンや生産効率改善により、原燃材料コストの増加や数量減などのマイナス影響を吸収しました。

個別の要因では、

「販売数量/構成」は、主に欧州における自動車用ガラスの販売数量減少による影響を受けました。

「販売価格」については、全体として安定的に推移しました。

「原燃材料コスト」は、エネルギー・コストの他、輸送費、原材料費が増加したことによりますが、その過半が建築用ガラス事業に影響しました。

「コストダウン、その他」ですが、リストラ効果や継続的なコスト削減や操業が改善したことにより、プラスになりました。

# 主要財務指標 (KPI)



ネット借入はIFRS16号の適用や戦略投資により増加

	2018年6月末	2019年6月末	2019年3月末
ネット借入 (億円)	3,198	3,883 <sup>*1</sup>	3,177
ネット借入/EBITDA	4.9x	5.3x	4.9x
ネット借入/純資産比率	2.4x	3.4x	2.4x
自己資本比率	16.6%	13.5%	16.2%
	2019年3月期 4月-6月期	2020年3月期 4月-6月期	2019年3月期
営業利益率 <sup>*2</sup>	6.4%	6.3%	6.3%

\*1: IFRS16号適用による342億円の増加を含む

\*2: 無形資産償却前営業利益

2019年8月1日 | 2020年3月期第1四半期決算報告

8

主要財務KPIの一覧になります。

「ネット借入」は、主にIFRS第16号「リース」の適用、戦略投資及び運転資本の季節的な増加による影響を受け、前年度に対して706億円増加し、3,883億円となりました。

「ネット借入/EBITDA比率」及び「ネット借入/純資産比率」は、「ネット借入」の増加による影響を受けました。

IFRS第16号の適用による影響につきましては、23ページをご参照ください。

「自己資本比率」は、円高に伴う為替換算やIFRS16号の適用により、前期末の16.2%から13.5%へ減少しました。

「営業利益率」は前期と同様の水準で安定的に推移しています。

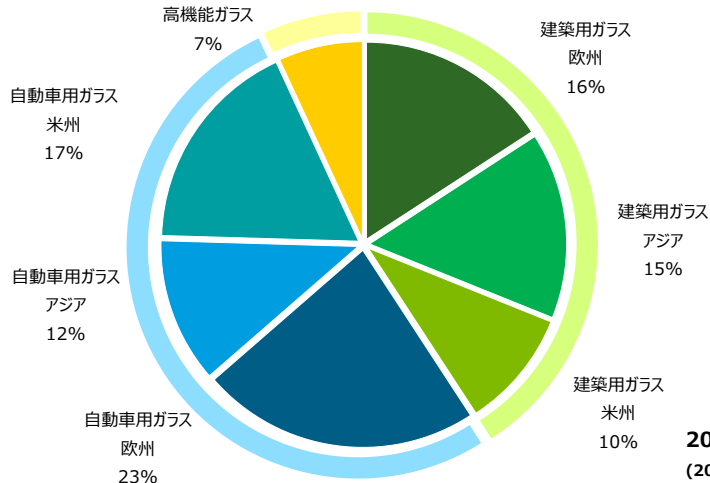


# 事業別売上高

グローバルに事業展開



1,471億円



2020年3月期 第1四半期  
(2019年4月-6月)

2019年8月1日 | 2020年3月期第1四半期決算報告

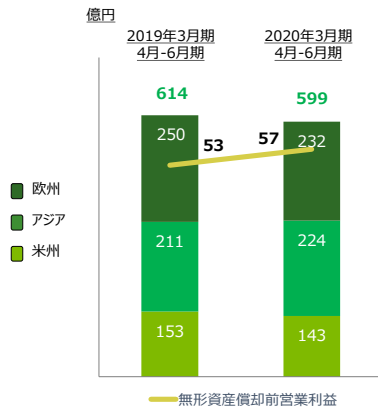
9

このスライドは、当社グループの事業セグメント毎の売上高の構成比を示しています。

当社グループの売上高の構成比ですが、欧州が40%、日本を含むアジアが33%、米州が27%となっています。

# 建築用ガラス事業 2019年3月期第1四半期との比較

太陽電池パネル用ガラスの増加やコスト削減効果が原燃材料コスト増加の影響を上回る



## 欧州（減収・利益横ばい）

- 安定した市場環境
- コスト削減や生産改善による効果が投入コストの増加をカバーし、利益は前年同期レベルを確保

## アジア（増収・増益）

- 太陽電池パネル用ガラスの出荷が堅調に推移
- 日本の需要は前年並みの一方、東南アジアは価格下落の影響を受ける

## 米州（減収・増益）

- 北米ではガラス供給増と天候不順による建築需要軟化の一方、太陽電池パネル用ガラスの出荷は増加
- 南米では現地通貨ベースの業績は改善

まず当社グループの建築用ガラス事業の業績についてご説明いたします。

建築用ガラス事業全体では、売上高は前年同期比2%減の599億円となったものの、営業利益は前年同期比4億円増の57億円になりました。これは、太陽電池パネル用ガラスが大きく増加したことやコスト削減の効果が、原燃材料コスト増加の影響を上回ったことによるものです。

各地域の状況ですが、

欧州は主に円高による為替換算の影響を受け、前年同期比7%の減収となりましたが、為替換算の影響を除くと1%の減収でした。

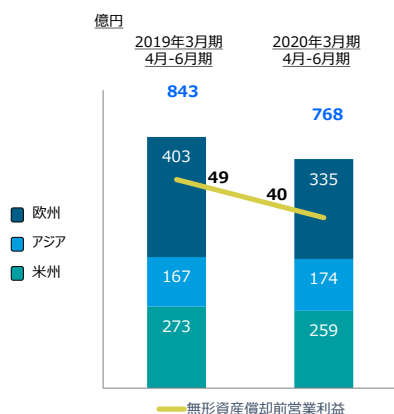
利益は、コスト削減や生産改善による効果が投入コストの増加を吸収し、前年同期と同じ水準で推移しています。

アジアですが、太陽電池パネル用ガラスの出荷が堅調に推移したことにより、増収増益となりました。日本の建築向け需要は前年並みに推移しましたが、東南アジアでは価格下落の影響を受けました。

米州は、主に南米通貨の換算の影響で前期比減収となりましたが、為替の影響を除くと、増収増益となっています。北米では市場でガラスの供給が増えたことに加え、天候不順等により建築需要が軟化しましたが、太陽電池パネル用ガラスの出荷が大きく増加したことにより増収増益となりました。南米においても現地通貨ベースでの業績は改善しています。

# 自動車用ガラス事業 2019年3月期第1四半期との比較

## 欧州での自動車生産減少の影響を受ける



### 欧州 (減収・減益)

- 新車用(OE)、補修用(AGR)ともに販売数量の減少により、減収減益

### アジア (増収・増益)

- 日本では、新車用ガラス(OE)の出荷が前年比で増加

### 米州 (減収・増益)

- 北米の新車用ガラス(OE)の業績は生産効率向上により改善。補修用ガラス(AGR)も販売価格改善により増益
- 南米の利益は前年並みの水準

次に自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業全体では、売上高は前年同期比9%減の768億円、利益は前年同期比18%減の40億円になりました。事業全体としては、欧州での自動車生産減少の影響を大きく受けた結果となっています。

各地域の状況ですが、

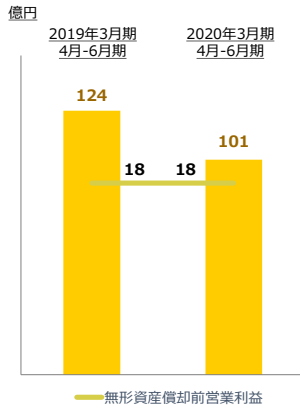
欧州は、新車用及び補修用ガラスともに需要減の影響を受け、減収減益となりました。

アジアですが、日本は新車向けガラスの出荷が前年比で増加するなど、全体として増収増益となりました。

米州は、建築用ガラス同様為替の影響を受けました。アルゼンチン・ペソの下落などにより、前年同期比5%の減収となりましたが、為替換算の影響を除くと、売上は1%ダウンにとどまりました。北米では新車用ガラス(OE)における生産効率向上や補修用ガラス(AGR)の販売価格改善により、増益となりました。南米の業績は前年並みの水準で推移しています。

## 高機能ガラス事業 2019年3月期第1四半期との比較

子会社の売却などにより減収、利益は前年並みの水準



### 高機能ガラス事業（減収・利益横這い）

- 子会社の売却などにより減収
- ファインガラスの業績は、継続的なコスト削減による効果を反映
- プリンター用レンズ及びガラスコードは、需要軟化の影響を受け減収減益
- メタシャイン™ の売上は前年並みだが、自動車用塗料や化粧品分野での需要は堅調
- バッテリーセパレーターの業績は引き続き堅調

最後に高機能ガラス事業の説明です。

高機能ガラス事業全体では、売上高は子会社の売却などにより減収の101億円、利益は前年同期比横ばいの18億円になりました。

セグメント別の状況ですが、

ファインガラス事業は、継続的に続けてきたコストベース改善の効果により業績が改善しました。

プリンター用レンズ及びエンジンのタイミングベルトに使用されるガラスコードは、需要軟化の影響を受け減収減益となりました。

メタシャインの売上は前年と同様の水準となりましたが、自動車用塗料や化粧品の分野での需要は堅調に推移しています。

バッテリーセパレーターの業績は引き続き安定しています。

## 主な取り組み施策 アップデート

来期からの再上昇に向けて、「事業構造の変革」をきちんとやりぬく

- VA化をさらに加速し、目標の50%へ
  - 新車用ガラス(OE)のさらなる改善に取り組む。  
建築用ガラス、高機能ガラスは既に目標を達成
- 低採算事業の改善加速
  - 日本・建築用ガラス：固定費削減、値上げ発表等の収益改善施策を順次実施中
  - 北米・自動車用ガラス：引き続き生産効率の改善に取り組み中
- 戦略投資案件は稼働に向けて計画通り進行中
  - 太陽電池パネル用ガラス生産設備の増設  
(ベトナム / 今期下期、北米 / FY21下期)
  - 南米フロートラインの増設 (アルゼンチン / FY21上期)



ベトナム



北米 Luckey工場



アルゼンチン

このスライドは、2019年3月期の決算発表でご説明しました今年度の「主な取り組み施策」についての進捗報告になります。

「Shift to VA + Growth」の方針の下、来期から増益基調に戻すべく現在取り組んでいる主な施策の状況について、簡単にご説明いたします。

まず、VA化の進展についてですが、当社グループの目標はVA売上比率50%です。建築用ガラス事業と高機能ガラス事業は既に50%を達成しておりますので、現在は自動車用ガラス事業に注力しています。新車用ガラス(OE)事業については、自動車のモデル切替のタイミングを狙ってVA製品への切替を図る必要があり、さらなる改善を目指して取り組んでおります。

「低採算事業の改善」についてですが、いくつかの重点分野を定めて取り組んでいます。その中で、日本の建築用ガラス事業においては、コスト削減及び値上げ発表等の収益改善策を徐々に進めており今後効果が発現してくることに期待しています。

また、北米の自動車用ガラス事業における生産効率の改善についても、今までの積み重ねがこの四半期において一定の損益改善効果につながりました。しかしながらまだまだ十分なレベルではなく、今後ともさらに注力していきます。

次に成長を支える「戦略投資案件」についてですが、ベトナム・北米・アルゼンチンのそれぞれのプロジェクトは計画通り順調に進行しております。ご参考まで、スライド右側の写真は各拠点の現在の工事の状況を表したものです。

このような施策をたゆまぬ努力で積み重ね、来期以降の成長に向けて、事業構造の変革をきちんとやりぬきたいと考えています。

## まとめ

### ・第1四半期決算

- 市場は概ね想定通りに推移し、会社計画に沿った実績
- 欧州自動車市場の減速、原燃材料コストの上昇による影響を、太陽電池パネル用ガラスの成長やコスト改善で一部吸収し、想定通りの利益達成
- ネット借入は、IFRS16号（リース）の適用、戦略投資および運転資本の季節変動等により増加

### ・今期の見通し

- 通期業績予想は変更せず。投入コスト増や一部市場の減速に生産効率改善・コスト削減施策で対応
- 来期からの再上昇に向けて「事業構造の変革」に引き続き取り組む
- 運転資本管理に注力し、戦略投資を除く通常のフリー・キャッシュ・フローはプラスを目指す

最後にまとめです。

第1四半期において市場は概ね当社の想定通りに推移し、業績は会社計画に沿った決算となりました。

欧州自動車市場の減速や原燃材料コストの上昇といった逆風のなか、太陽電池パネル用ガラスの力強い成長や継続して取り組んでいるコストの削減により、想定通りの利益を達成することができました。

今期の見通しとしましては、第1四半期実績が想定通りであったことなどを踏まえ、通期業績予想の変更はありません。

今後ともエネルギーコストをはじめ投入コストの増加や欧州自動車用市場など一部市場の減速は想定されるものの、引き続き生産効率改善やコスト削減施策で対応してまいります。

さらに来期からの業績の再上昇に向け、前のスライドでご説明したように低採算事業の抜本的な改善等の重要施策をやり抜き、事業構造の変革を更に進めたいと考えております。

また、キャッシュフローについては、特に運転資本を厳しく管理することにより、当期年度末までに、戦略投資等を除く通常ベースのフリー・キャッシュ・フローはプラスにしたいと考えています。

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市況、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

# 補足資料



## 決算補足資料

- 事業部門別・地域別売上高及び償却前営業利益
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー
- 個別開示項目
- 為替レート等
- IFRS第16号「リース」の適用による影響額



# 事業部門別・地域別売上高及び償却前営業利益\*

2019年3月期第1四半期との比較



売上高	第1四半期 (4月-6月: 3ヶ月累計)		
	2019年3月期	2020年3月期	増減
単位: 億円			
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>614</b>	<b>599</b>	<b>(15)</b>
欧州	250	232	(18)
アジア	211	224	13
米州	153	143	(10)
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>843</b>	<b>768</b>	<b>(75)</b>
欧州	403	335	(68)
アジア	167	174	7
米州	273	259	(14)
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>124</b>	<b>101</b>	<b>(23)</b>
欧州	21	17	(4)
アジア	99	80	(19)
米州	4	4	-
<b>その他</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>-</b>
<b>合計</b>	<b>1,584</b>	<b>1,471</b>	<b>(113)</b>

償却前営業利益*	第1四半期 (4月-6月: 3ヶ月累計)		
	2019年3月期	2020年3月期	増減
単位: 億円			
建築用ガラス事業	53	57	4
自動車用ガラス事業	49	40	(9)
高機能ガラス事業	18	18	-
その他	(18)	(22)	(4)
<b>合計</b>	<b>102</b>	<b>93</b>	<b>(9)</b>
欧州	58	38	(20)
アジア	36	42	6
米州	26	35	9
その他	(18)	(22)	(4)
<b>合計</b>	<b>102</b>	<b>93</b>	<b>(9)</b>

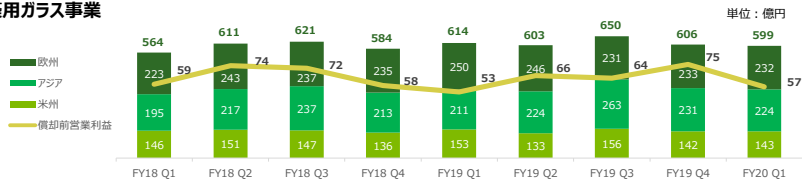
\*: 無形資産償却前営業利益

# 事業部門別・地域別売上高及び償却前営業利益\*

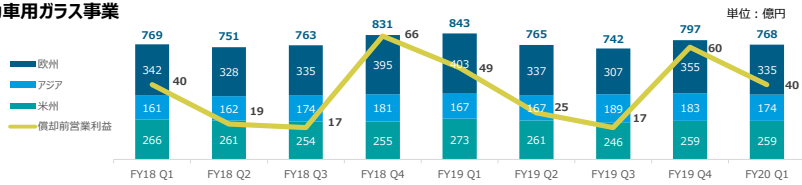
## 四半期別推移



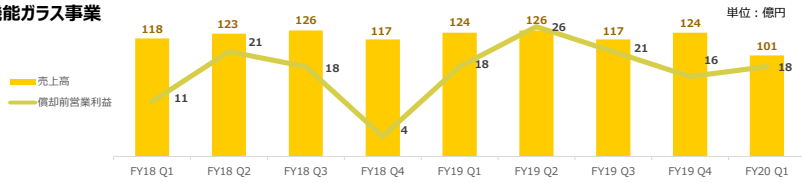
### 建築用ガラス事業



### 自動車用ガラス事業



### 高機能ガラス事業



2019年8月1日 | 2020年3月期第1四半期決算報告

\*: 無形資産償却前営業利益

# 連結貸借対照表



単位：億円

	2019年3月末	2019年6月末	増減
<b>資産</b>	<b>7,619</b>	<b>7,841</b>	<b>222</b>
<b>非流動資産</b>	<b>5,163</b>	<b>5,482</b>	<b>319</b>
のれん・無形資産	1,611	1,582	(29)
有形固定資産	2,415	2,835	420
その他	1,137	1,065	(72)
<b>流動資産</b>	<b>2,456</b>	<b>2,359</b>	<b>(97)</b>
現金及び現金同等物	524	397	(127)
その他	1,932	1,962	30
<b>負債</b>	<b>6,294</b>	<b>6,682</b>	<b>388</b>
<b>流動負債</b>	<b>1,930</b>	<b>1,963</b>	<b>33</b>
金融負債	422	622	200
その他	1,508	1,341	(167)
<b>非流動負債</b>	<b>4,364</b>	<b>4,719</b>	<b>355</b>
金融負債	3,293	3,667	374
その他	1,071	1,052	(19)
<b>資本</b>	<b>1,325</b>	<b>1,159</b>	<b>(166)</b>
親会社の所有に帰属する持分	1,238	1,062	(176)
非支配持分	87	97	10
<b>負債及び資本</b>	<b>7,619</b>	<b>7,841</b>	<b>222</b>

2019年8月1日 | 2020年3月期第1四半期決算報告

19

# 連結キャッシュ・フロー



単位：億円

	2019年3月期 4月-6月期	2020年3月期 4月-6月期	増減
当期利益	60	31	(29)
減価償却費	70	87	17
減損損失（戻入）	(26)	6	32
有形固定資産等売却益	-	(10)	(10)
法人所得税支払額	(32)	(32)	-
その他	18	11	(7)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー（運転資本の増減考慮前）</b>	<b>90</b>	<b>93</b>	<b>3</b>
運転資本の増加	(130)	(194)	(64)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>(40)</b>	<b>(101)</b>	<b>(61)</b>
有形固定資産の取得			
－戦略投資等	-	(131)	(131)
－その他	(64)	(60)	4
資産売却収入	1	20	19
その他	(3)	4	7
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>(66)</b>	<b>(167)</b>	<b>(101)</b>
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>(106)</b>	<b>(268)</b>	<b>(162)</b>

## 個別開示項目



単位：億円

	<u>2019年3月期</u> <u>4月-6月期</u>	<u>2020年3月期</u> <u>4月-6月期</u>
子会社の売却による利益	-	<b>10</b>
リストラチャリング費用	(2)	<b>(8)</b>
設備休止に係る費用	-	<b>(5)</b>
有形固定資産等の減損損失及び減損損失戻入益	27	<b>(2)</b>
係争案件の解決に係る費用	(1)	<b>(1)</b>
	<hr/> 24	<hr/> <b>(6)</b>

# 為替レート等



## 期中平均レート

	FY2018				FY2019				FY2020	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	見通し
英ポンド	142	144	146	147	149	147	146	146	141	145
米ドル	111	112	111	111	110	111	111	111	109	110
ユーロ	122	126	128	130	131	130	129	129	124	130
ブラジル・リアル	34.6	35.0	34.8	34.4	30.4	29.3	29.3	29.4	28.0	28.0
アルゼンチン・ペソ	7.06	6.74	6.65	6.30	4.70	-	-	-	-	-

## 為替感応度

他の条件に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の増加（減少）額

(億円)	FY2018	FY2019
資本	(35.0)	(33.0)
当期利益	(1.0)	(2.0)

## 期末レート

	FY2018				FY2019				FY2020
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
英ポンド	146	151	152	150	145	148	141	144	137
米ドル	112	113	113	106	111	113	111	111	108
ユーロ	128	132	136	132	128	132	127	124	123
ブラジル・リアル	34.0	35.4	33.9	32.1	28.6	28.2	28.5	28.3	28.3
アルゼンチン・ペソ	6.81	6.42	6.03	5.30	3.94	2.84	2.93	2.53	2.53

## 原油価格 (ブレント)

FY2020 見通し 1/バレル = \$67

# IFRS第16号「リース」の適用による影響額



	想定影響額
<b>損益計算書(年換算・概算)</b>	
EBITDA	90億円の増加
減価償却費	80億円の増加
営業利益	10億円の増加
金融費用	10億円の増加
税引前利益	影響軽微
<b>貸借対照表(期首調整)</b>	
有形固定資産	342億円の増加
リース負債	342億円の増加

# NSG

GROUP